

# 火災に警戒。日頃から。

乾燥・強風は2月がピーク

毎年3月1日から7日までと11月9日から15日までに行われている火災予防運動。しかし、火災に気をつけなくてはいけないのはこの運動の期間だけではありません。火災への備えはその時期も、そしていつでも必要です。



図 消防局予防課 ☎027-220-4507

## 他人事ではない 糸魚川市の火災

まだ記憶に新しい、昨年12月に起きた新潟県糸魚川市の大規模火災。死者はいませんが16人が負傷、約4万平方メートル、144棟が火災の被害に遭ったと発表されています。この火災では地元消防隊だけでなく、近隣からの応援も受けて対応。119番通報から消火までに約30時間かかりました。消火活動には延べで231台の消防車と1,954人を費やしました。

被害が広がった原因は、火災が発生した場所が木造家屋の密集する地域だったこと、出火当時風速20メートルを超える強い風が吹いていたことなどが考えられています。  
本市もこの時期は、からっ風と呼ばれる強い季節風の吹く時期。糸魚川市の大規模火災は決して他人事ではありません。



### 本市消防団が総務大臣から表彰 消防団の仲間になりませんか

図 消防局総務課 ☎027-220-4504

本市消防団は大学や専門学校に通いながら消防団活動する学生消防団員の増加人数が多く、地域防災力の向上への貢献が認められ、総務大臣から感謝状が授与されました。学生に限らず、消防団員を随時募集しています。詳しくは消防団ホームページをご覧ください。

### 2月は気象環境が厳しい月

気象庁が発表している、前橋地方気象台の昭和56年から平成22年までの30年間のデータでは、下図のとおり2月は平均湿度が一番低く、平均風速が一番強い月。このデータからは、2月は一度火災が起きると延焼しやすい、気象環境の厳しい月といえます。

年によって異なりますが、平成21年から平成27年までの市内の火災発生件数も、2月を含め火災の多い1月から5月までの各月は年平均を上回り、一番少ない8月・9月の2倍以上にも。この時期の気象環境を考えると、糸魚川市の火災を教訓に、一人一人が火災予防の意識を高めることが大切です。

